

みずの絆の再生をめざす環境保全活動と交流推進事業

豊川流域圏通貨バンク協議会

## 1 事業の目的

“豊川流域圏づくり”は、生活圏・交流圏を同じくする豊川の上流域と下流域の連帯意識の醸成や交流を図り、流域圏が一体となって発展・活性化していくことをめざしている。この中で本事業は、とよがわ流域大学・流域圏講座修了生らが立ち上げた実践プロジェクトの一つで、地域住民が主体となって水と環境を通じた地域づくりを推進することで、ひいては東三河地域全体の発展に資することを目的とするものである。

## 2 事業の概要

### (1) 基本的内容

活動初年度の20年度は、実際に豊川流域圏内の農村部、都市近郊部、海岸部の3地域において、広く参加者を募り、環境保全活動、環境調査、農作業体験などの活動を多角的に行い、また、参加者と地元の交流を実施するものである。事業の基本的な流れは、以下のとおりである。

- ① 農村部（新城市内）、都市近郊部（豊橋市梅田川流域）、海岸部（豊橋市から田原市の三河湾沿岸）において、広く参加者を募って、次の分野に係る実践・体験イベントを開催する。
  - ・有機農業・減農薬農法の推進による農地からの河川・海への水質汚濁負荷の低減
  - ・森林（人工林）の手入れ
  - ・河川の水質改善、河川・海辺環境の再生
  - ・野生動植物の生息・生育環境及び景観の再生
  - ・環境美化、環境教育の推進
- ② 実践・体験イベントの開催回数は、3地域それぞれ2回程度とする。
- ③ 上記イベントの開催と併せて、参加者間及び地域との交流を図るためのイベントを開催する。
- ④ 実践・体験イベントには、実践活動を行った参加者が、試行として流域圏通貨の付与と交換が体験できるコーナーも設ける。
- ⑤ それぞれのイベント実施後に、環境保全活動と交流情報について発表会を開催し、活動のステップアップへの意見交換を行なう。

### (2) 活動の構図

活動地域は、図1の「あいち水循環再生構想」を参考にして選出した3地域の環境特性を水循環イメージにあてはめた形で設定した。具体的な位置関係と範囲は、図2に示すとおりである。

### (3) 事業実施日程

本事業は、8月22日に委託契約を締結し、表1に示した日程のとおり実施した。野外でのイベント開催は天気によらずに左右されやすいため、予備日を設け、場合によっては中止して開催日を再設定することもあり得たが、幸い事業期間において大きな変更点は無く実施することができた。



図1 流域の水循環と活動地域の模式図



図2 活動地域の位置・範囲

表1 みずの絆の再生を目指す環境保全活動と交流推進事業の経過

| 活動分類<br>地域<br>名称<br>年月日 | 実践・体験イベント                  |                                     |                                           | 流域圏通貨                                      |
|-------------------------|----------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------------|--------------------------------------------|
|                         | 農村部<br>(新城市内)              | 都市近郊部<br>(梅田川流域)                    | 海岸部<br>(豊橋市・田原市内三河湾沿岸)                    | 豊川流域圏<br>(左記イベント等)                         |
|                         | 新城エコファーマー<br>(新城あぐりの郷)     | 梅田川フォーラム                            | 豊川・渥美・前芝フ<br>ォーラム (みなと塾)                  | 「まい」バンク<br>(運営委員会)                         |
| H20年2月                  | とよがわ流域大学・流域圏講座 企画提案書発表     |                                     |                                           |                                            |
| 8月                      |                            |                                     | 8月イベント×<br>*大雨のため中止                       | 事業受託                                       |
| 9月27日                   |                            | 1st イベント<br>*清掃・観察・交流               |                                           | 付与・交換体験                                    |
| 9月28日                   |                            |                                     | 9月イベント<br>*貝拾・清掃・交流                       | 付与・交換体験                                    |
| 10月18日                  | 秋のイベント<br>*菜の花種蒔・交流        |                                     |                                           | 付与・交換体験                                    |
| 11月16日                  |                            | 2nd イベント<br>*清掃・観察・交流               |                                           | 付与・交換体験                                    |
| 12月6日                   | 冬のイベント<br>*里山手入れ・交流        |                                     |                                           | 付与・交換体験                                    |
| 12月21日                  |                            |                                     | 12月イベント<br>*清掃・交流・観察                      | 付与・交換体験                                    |
| H21年<br>1月24日           | 活動発表                       | 活動発表                                | 活動発表                                      | 活動発表<br>付与・交換体験                            |
| 摘要                      | 秋・冬ともに上平<br>井地区及び周辺で<br>開催 | 1st: 植田町地内<br>2nd: 船渡町地内<br>及び周辺で開催 | 9月: 前芝海岸周<br>辺で開催、12月:<br>渥美半島西の浜等<br>で開催 | 随時、愛知大学三<br>遠南信地域連携セ<br>ンター等にて打合<br>せ・会議開催 |

(注) 網入り欄: 本事業のメインイベント。\*: 主な活動内容。

### 3 具体的な実施結果

#### (1) 新城エコファーマーの活動

##### ① 活動の趣旨

県下の“エコファーマー”は、i) 堆肥等の有機物を農地に適正な量を施用する土づくり、ii) 有機質肥料や肥効調節型肥料を使って化学肥料を低減する、iii) 機械で草を刈ったり、病害虫に強い品種を育てたり、害虫の侵入しにくい環境を整えることで化学農薬を減らすという、環境にやさしい農業に取り組む5年間の計画を作成し、知事の認定を受けた農業者の愛称である。今春、新城市上平井地区の農家の多く(27戸)はエコファーマーに認定され、環境にやさしい農業に励んでいる。しかし一方には、担い手の高齢化による地域の維持・管理の課題もある。このエコファーマーの農村地域での活動イベントは、里山の整備も含めて“エコ農業”を体験する(お手伝いする)ということを趣旨としている。

##### ② 実践・体験イベントの結果

10月18日(土)、上平井地区で、秋のイベント、エコ農業体験(菜の花種まき)、里山・城址見学を兼ねた交流会を開催した。参加者は秋晴れの下、自家用車、電車(車送迎)、自転車、徒歩で集った20人であった。畑は畝状播種やバラ蒔きを行い、菜の花まつり(花観賞)後種を取って鋤き込む。転作水田は同様の蒔き方とナノハナ文字播種を行い、菜の花・レンゲ鑑賞後、一部種を取り鋤き込む。播種予定面積は1.2haで、うち当日は0.5haの田畑に播種を行なった。

昼食・休憩後は交流会にして、参加者はエコファーマー活動ビデオを鑑賞後、大谷城址<sup>おおや</sup>に登って歴史環境講話を聴き、周囲を歩いて観察して回り、地元との懇談を行なった。



稲刈りを待つ水田



休耕田ビオトープ池



畝立て・均し



作業交代



菜の花の種蒔き



ナノハナ文字に播種



大谷城址での交流会



里山(人工林)水田

12月6日、大谷城址の林内をメイン会場に、冬のイベント、里山の手入れ(森林整備体験)と古戦場見学及び交流会を開催した。早朝冷え込んだが昼中は晴天に恵まれた。参加者は自家用車、電車(車送迎)、自転車、徒歩で集った23人であった。

里山手入れは、23年程前植林後に下草刈りを5年実施したヒノキ林181m<sup>2</sup>と、10年以上前に植林して毎年下草刈りを実施しているヒノキ林56m<sup>2</sup>及びモウソウ竹が侵入したスギ・ヒノキ林495m<sup>2</sup>を対象とし、午前中作業を予定した。作業着手前に、県事務所の森林整備指導



“エコファーマー”しませんか



担当者から間伐作業の説明を受け、鋸で間伐に挑んだ。また、現場では安全に配慮して作業するよう細かく指導を受けた。伐採作業は初心者にキツイと感じられたが、次第に熱中した。昼の終了時間迄にヒノキ（切口直径 8~25cm）10 本、スギ（切口直径 5~8cm）5 本を間伐した。後日、一部はエコプレート用に利用し、商工会も一部利用することになった。モウソウ竹は 8 本を伐採した。後に一部は竹炭づくり、写真スタンド加工に供された。

休憩をとった午後は交流会にして、参加者は設楽ヶ原決戦場を通過して資料館に入り、歴史環境講話を聴くとともに鉄砲（火縄銃）の手入れなどを見学して、懇談と体験を深めた。



受付の様子



間伐に着手



間伐作業



休憩中の皆さん



歴史環境講話



鉄砲手入れの様子



参加者交流記念



菜の花の発芽状況

## （２） 梅田川フォーラムの活動

### ① 活動の趣旨

豊橋市南部の水を集めて西に流れる 2 級河川梅田川は、豊川用水の恩恵を受ける都市近郊部に位置づけられる。梅田川フォーラムは、汚濁して自然性が後退した梅田川の上下流域の住民が主体となり、水の絆の再生をめざして、梅田川流域の環境保全活動と上下流交流を推進することを目的として、準備会を経て平成 20 年 9 月に立ち上げた団体である。

### ② 実践・体験イベントの結果

9 月 27 日（土）、梅田川の植田橋周辺を会場に、ファースト・イベント、クリーンアクションと梅田川を学ぶ会を開催した。当日は雨後の晴天で、自家用車、電車、自転車、徒歩で 67 人の参加者が集った。午前中は、豊鉄渥美線の鉄橋から下の植田橋の西側まで約 1 km 間の堤



河川清掃



収集ゴミの計量



収集ゴミの運搬



収集ゴミの集積



仮設生き物館



水質検査



水で繋ぐ交流の場



講話の様子

防を含む河川清掃（ゴミ拾い）を1時間行い、その後昼まで、ふれ合い川の観察会、活動計量・仮設生き物館の観察、水質検査体験を試みた。昼食の場合は、そのまま「水と繋がる交流の部」に移行した。初の梅田川を学ぶ会は、河川の水質概況の解説、梅田川の昔話、環境保全型農業からエコファーマー制度、有機栽培農法、及び河川浄化の事例について講話の時間を設けた。また、途中の休憩を兼ねて有機栽培茶の試飲会を行った。

11月16日（日）、梅田川の大崎橋周辺及び船渡町公民館を会場に、同セカンド・イベントを開催した。当日は雨模様の中、自家用車、電車、自転車、徒歩で35人の参加者が集った。午前中は、梅田川兩岸の堤防・防潮壁内・船着場と河川敷・水際までの区間で河川清掃を1時間行い、活動計量後、ふれ合い川の観察会とした。しかし、清掃終了後に雨が本降りになり、川の観察と採水を一部に留め、公民館で昼まで採取した僅かな生き物の観察と水質検査体験を行なった。昼食後の「水と繋がる交流の部（梅田川を学ぶ会）」は、あいち水循環再生基本構想、梅田川の環境保全型農業から茶の有機栽培事例、菜の花エコネットワークについて講話の時間を設けた。また、途中の休憩を兼ねて有機栽培茶の試飲会を行った。



収集ゴミは、図3、図4に示した結果が得られ、梅田川のゴミの漂流・滞積、投棄状態の軽減、環境改善に寄与した。

漂着・投棄ゴミは大量にあった。最初は着手すればよいと考えていたが、1時間1回の活動だけで収集処理

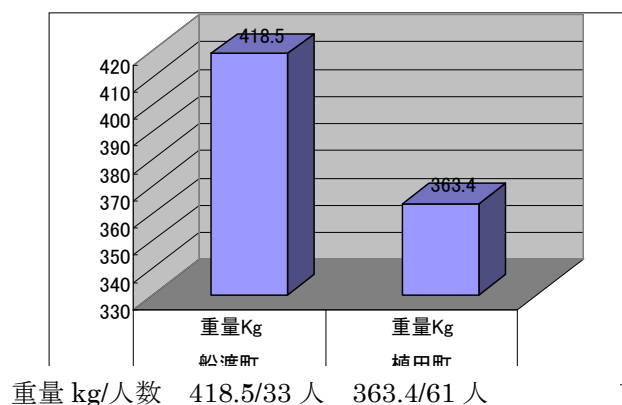


図3 収集ゴミの実績比較

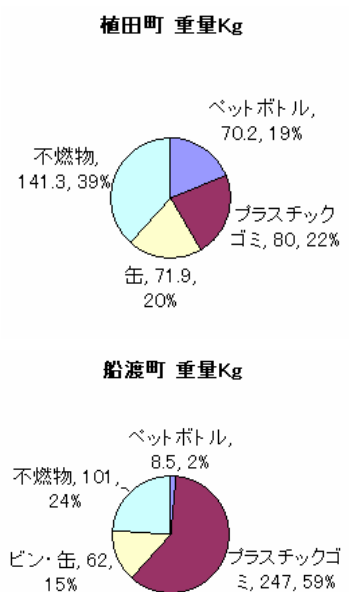


図4 収集ゴミの構成（重量率）

できるものではなかった。イベント参加者は 60～70 代が全体の約 70%を占め、10～30 代の参加が極めて少なかった。これには住民がボランティア活動を否定的に考えたことも要因と考えられた。しかし、実際に参加した住民は、環境意識の高揚とフォーラムへの関心、活動の仕掛けを待っているデータが得られ、今後に意欲が持てた。(表 2 参照)

表 2 参加者へのアンケート回答結果

| 項目              | 評価 (選択支)  | 1st イベント |       | 2nd イベント |       |
|-----------------|-----------|----------|-------|----------|-------|
| イベントの実施内容について   | とてもよかった   | 15 人     | 36.6% | 2 人      | 8.7%  |
|                 | よかった      | 20       | 48.8  | 15       | 65.2  |
|                 | ふつう       | 3        | 7.3   | 4        | 17.4  |
|                 | あまりよくなかった | 0        | 0     | 0        | 0     |
|                 | よくなかった    | 0        | 0     | 0        | 0     |
|                 | 無記入       | 3        | 7.3   | 2        | 8.7   |
|                 | 計         | 41       | 100   | 23       | 100   |
| 梅田川フォーラムの活動について | 参加したい     | 19 人     | 46.3% | 8 人      | 34.8% |
|                 | 時々参加したい   | 18       | 43.9  | 10       | 43.5  |
|                 | わからない     | 1        | 2.4   | 4        | 17.4  |
|                 | 関心ない      | 0        | 0     | 0        | 0     |
|                 | その他       | 0        | 0     | 0        | 0     |
|                 | 無記入       | 3        | 7.3   | 1        | 4.3   |
|                 | 計         | 41       | 100   | 23       | 100   |

(注) アンケート回収率：1st イベント 61.2%、2nd イベント 69.7%

### (3) 豊川・渥美・前芝フォーラムの活動

#### ① 活動の趣旨

「三河湾を復活させることは可能であり、われわれの義務である」(内湾の自然誌—三河湾の再生をめざして—西條八束 2002)。かつて三河湾の水産資源は日本のトップレベルで、どこかの海岸でも泳ぐことができた。その素晴らしい海が僅か 40 年程の間にすっかり汚染され、赤潮と貧酸素の海になり、泳ぐことのできる場所も限られてしまった。大きな自然の恵みを回復させて子孫に残すことが私たちの義務であろうと、豊川河口の前芝で“みなと塾”を中心にしてフォーラムを立ち上げた。人と自然がともに生きるまち・海辺の再生をめざす地域連携型活動で環境保全と上下流交流に取り組むことは、遅ればせながらも三河湾浄化に繋がると確信している。

#### ② 実践・体験イベントの結果

9 月 28 日 (日)、前芝海岸で、9 月のエコアクション・イベント、干潟の貝採り大会、海岸のゴミ拾い及び交流会を開催した。平成 20 年は久しぶりに春からアサリがよく採れていたことから、期待してイベントの副題を“河口干潟の生物と私たちのつながり&交流”とした。

参加者は、晴天の下、自家用車、電車 (車送迎)、自転車、徒歩で集った 40 人であった。ところが、干潟でアサリが 1 粒も採れない異常事態が発生していた。原因は 9 月 19～20 日にかけて台風 13 号の通過で苦潮が発生し、二枚貝が殆ど死滅したためで、大自然が目前に三河湾の



イベント当日の前芝海岸の状況 (干潟の異変)





左：アサリ稚貝の大量死、湾内の貧酸素水塊の影響を伝える新聞記事

右：採取した新鮮な各種貝殻、約 30 人が 1 時間かけて採取した僅かな生き物

汚濁の様を直に見せた日となった。よって、干潟の貝採り大会は余儀なく干潟観察に切り替えた。その後、海岸清掃を行ない、漂着・投棄ゴミ合計 135kg を収集した。瀕死の海岸で採取できた僅かな生き物は、仮設水族館と称した水槽や平皿に入れて参加者の観察に供した。また、自然観察講話は中止して、代替的に水質検査とミニ浄化実験を行なった。昼からの交流会は、海辺の松下の一面で、手作りの昼食メニューを楽しみながら行なった。



海岸清掃で拾い集めたゴミの計量・集積

採取できた生き物を仮設水族館で観察



交流会の様子（アサリ汁鍋、炭火焼き、演奏、参加者懇談）

次は計画を練り直し、12 月 21 日（日）、渥美半島・西の浜を主会場にして 12 月のエコアクション・Xマスイベントを開催した。このイベントは「亀の子隊」の西の浜クリーンアップ活動に合流して実施することから、副題を“海辺の連携”とした。活動内容は、午前中の海岸のゴミ拾い及び観察を行なう環境保全活動の部、その後昼食まで続く海辺の交流会の部、また午後に、豊川用水路末端の初立池での観察、緑が浜公園でのエコパーク及び汐川干潟の観察を設定した。更に、今回は豊橋市内から貸し切りバスを運行したことから、バス車内で環境教育ビデオ（河川環境・水質浄化の 2 本）の鑑賞も組み込んだ。

豊橋方面からの参加者数はバスと自家用車で集った 38 人であった。また、海辺の交流会には、渥美の亀の子隊関係者から 18 人が加わった。西の浜の清掃活動は、亀の子隊が毎月第 3 日曜に実施している。当日は「海浜の森」北側の堤防を起点に、亀の子隊の案内に従って配給のゴミ袋を片手に、浜辺沿いを南北に展開して行なった。当日は、豊田方面の団体（矢作川川会議）



漂着ゴミ

清掃活動

ゴミ計量

活動講話





“水のきずな” 下敷きの好きな写真裏側に流域圏住民に伝えたい「一言メッセージ」を記入



亀の子隊に間伐材をプレゼント

初立池

沢川干潟

40人もバスで来ていて、自由参加の亀の子・親亀、他の一般（住民・企業）の参加者も合同で、穏やかな天気の下、にぎやかなゴミ拾いになった。この総勢 129 人、1 時間程（正味 30 分）の活動で漂着・滞留ゴミ合計 430kg（うち当フォーラム分推計 187kg）を収集した。

海辺の交流会は国民休暇村の体育館で行なった。先ず亀の子隊代表の鈴木講師から、平成 10 年に開始した西の浜クリーン活動の経緯、海辺環境の推移について講話を頂いた。次に、当協議会と亀の子隊が予め作成した“水のきずな”下敷きを使って、参加者全員に、本日の清掃活動を通して流域圏の住民に伝えたい「一言メッセージ」を、好みの写真の裏側に書き入れてもらった。その後、交流会を食堂に移し、サンタ姿で登場した当フォーラムの加藤代表が亀の子隊の子供に、新城エコファーマーのイベントで間伐した小丸木・プレート素材をプレゼントして場を盛り上げた。



### (3) 流域圏通貨「まい」の付与・交換

参加者交流記念（エコパーク）

#### ① 「まい」のねらい

「まい」は、地域の住民の主体的な環境保全活動と交流推進の呼び水効果をねらいとし、本事業においては、当協議会の運営委員会が管理する準備券を試用した。

加算単価は 30 分間の活動相当 5「まい」（最小額）とする。また、感謝の重みとして、活動の軽重【汗 1（軽い・汗なし）、2（重い・汗かく）】、現場までの距離【1（居住市町村内）、2（新城・渥美）、3（北設楽）】及び圏外者への感謝【1（豊橋と同じ。山地在住の方は圏内町村と同じ。）】の係数を乗じるものである。

#### ② 「まい」付与・交換の結果

各イベント時の実績は、表 3 のとおりであった。



図 5 まい予備券（縮小版）

表3 「まい」付与額と活動実績

| 活動                      | 活動人数 | 「まい」付与額 | 活動実績                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------------------------|------|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 新城エコファーマー<br>秋のイベント     | 20   | 1,080   | エコ農業体験（里水保全）<br>・化学肥料の低減（当日分：0.5ha）<br>・農地保全管理（畑、転作水田）<br>・農村景観・生態系の保全<br>・農村地域の交流の促進（まつり・催事）                                                                                                                                             |
| 冬のイベント                  | 23   | 1,060   | 里山整備体験（里山再生）<br>・水の涵養（水量換算 31m <sup>3</sup> /年）<br>・CO <sub>2</sub> 削減（123kg、炭材換算 42kg）<br>・生物多様性の保全<br>・獣害の抑制                                                                                                                            |
| 梅田川フォーラム<br>1st イベント    | 67   | 2,130   | 河川清掃・計量実践（河川再生）<br>・ノンポイント廃棄物流出負荷の削減<br>未来&生態系汚染の低減（363kg、6.3kg/人、<br>7.88m <sup>3</sup> 、0.14m <sup>3</sup> /人）<br>・河川生態系サービスの保全<br>・都市近郊の河川景観の保全<br>河川観察・調査体験<br>・河川防災・利用・生態系モニター<br>・環境教育・生活意識                                         |
| 2nd イベント                | 35   | 1,750   | 河川清掃・計量実践（河川再生）<br>・ノンポイント廃棄物流出負荷の削減<br>未来&生態系汚染の低減（457kg、14.5kg/人、<br>3.10m <sup>3</sup> 、0.10m <sup>3</sup> /人）<br>・河川生態系サービスの保全<br>・都市近郊の河川景観の保全<br>河川観察・調査体験<br>・河川防災・利用・生態系モニター<br>・環境教育（意識）                                         |
| 豊川・渥美・前芝フォーラム<br>9月イベント | 40   | 1,230   | 海岸清掃・計量実践（里海再生）<br>・ノンポイント廃棄物集積負荷の削減<br>未来&生態系汚染の低減（135kg、3.6kg/人、<br>0.95m <sup>3</sup> 、0.03m <sup>3</sup> /人）<br>・河口干潟生態系サービスの保全<br>・干潟・みなとまちの景観の保全<br>干潟観察・調査体験<br>・海岸防災・利用・生態系モニター<br>・環境教育（生活）                                      |
| 12月イベント                 | 56   | 1,450   | 海岸清掃・計量実践（三河湾再生）<br>・ノンポイント廃棄物集積負荷の削減<br>未来&生態系汚染の低減（活動 129 人 430kg、<br>フォーラム推計 187kg、3.3 kg/人）<br>・三河湾生態系サービスの保全<br>・西の浜（砂～礫）景観の保全<br>海岸観察・調査体験<br>・海岸防災・利用・生態系モニター<br>・環境教育（生活）<br>初立池・畑等（豊川用水受益地）、緑ヶ浜公園（エ<br>コパーク・汐川干潟）観察<br>・環境教育（共生） |
| 活動報告会                   | 58   | 1,860   | 活動情報交流&意見交換                                                                                                                                                                                                                               |
| 合計                      | 299  | 10,560  | 上下流交流（地産品等との交換・保有）<br>付与額：平均 35 まい/人<br>交換額：4,800 まい（45.5%）<br>保有額：5,760 まい                                                                                                                                                               |

(備考) 交換品・サービスの内容：①活動により産出又は考案し構想したもの〔農産・林産物及び加工品、農村ミュージアム案内・グリーンツーリズムサービス、ヨシ・野草、貝殻・海藻（干物）、潮騒、伝承など〕、②活動により産出し、交換品になったもの〔活動写真から“水のきずな”下敷き：20 まい、40 まいで交換（以下同じ）、間伐材からエコ焼印プレート、写真スタンド：5 まい〕、③地域等から提供され交換品になったもの〔エコ焼印プレート（リサイクル品）：5 まい、10 まい、生鮮野菜（新城エコファーマーから）、愛知の水、タオル：10～30 まい〕、④市販品から調達したもの〔タオル、ポリバケツ（大小）、竹炭、ティッシュ、虫キング：10～50 まい〕

#### （４）活動発表会

活動発表会は、流域圏の住民に初動期の活動状況を公表し、各活動について意見や希望を寄せていただき取組みのステップアップを共に考える趣旨で、平成 21 年 1 月 24 日（土）、愛知大学豊橋校の会議室で開催した（時間 13：30～16：15）。副題は、実践・体験イベントで参加者がモノや現象・アイデアを拾い集めた過程から今後を考える意識を得たことを表現して、“イベントで拾った流域圏の未来”とした。また、とよがわ流域大学・流域圏講座の経緯に因み、国土交通省豊橋河川事務所、社団法人東三河地域研究センター、愛知大学三遠南信地域連携センター及び NPO 穂の国森づくりの会に後援を頂いた。開催当日の参加人数は 58 名で、主催者あいさつ、趣旨説明後、【第 1 部】3 地域での取組み及び「まい」の報告を行った。休憩時間等は、会場周囲の壁側に設けた活動展示及び「まい」の付与・交換コーナーを参加者に閲覧・利用して頂いた。



活動報告



参加者



講評



活動展示

第 2 部は、最初に、会場の中で活動に参加した住民から感想・コメントを頂いた。続いて、報告者と会場と、「まい」の各地域活動での機能（役割）、干潟の異常現象と潮干狩り復活への方策（見解）、河川浄化の方法（解説）について質疑応答があり、意見交換が行われた。最後に、後援機関から講評を頂いた。他に、同日回収した参加者アンケートの回答、亀の子隊から届いた手紙もあり、多方面の方々から今後のイベント参加や活動の推進に共鳴した感想や建設的な意見を頂いた。（資料参照）

## 4 事業の効果

### （１）環境保全活動

水循環を基調として身近にできることから始めた住民主体の環境保全活動は、流域圏人口に対して参加者の割合は僅かであったが、実践・体験活動の実績は確実に上げられた。活動数値は流域圏に客観的データ・活動単位を提供した。また、参加者は環境の現状を捉えたモニターとして機能し、定性的にも体験から得た感覚が鋭敏になり、次の行動意識を呼び起こした。

### （２）上・下流交流と共生意識

世代を通じて就業機会が多く活気があった時代に比べて、日頃寂しい生活をおくり、もの足

りない仕事・地域の状態を感じていられる地域住民は、各イベントの実施で、その意識が少しずつ払拭され、新感覚を抱き・気づかされたことも多く、共生意識の萌芽が感じられた。日頃住んでいる地域を越え、他地域の活動に参加した住民は、作業を地元と協働して行い、楽しく過ごした。体験・勉強の場は人材育成にもなった。「まい」の交換品は活動記念ともなり、交流を引き立てた。エコ活動への感謝を意味する「まい」は、最初から流域住民に関心を呼んでイベント参加者が多く集まることはなかったが、活動参加者は、付与されることで実践・体験した実感と期待感を抱いた。また、活動回数を重ね、交換体験した方には理解が進み、「まい」が事業推進に補助的に機能した。

### (3) 地域振興と流域圏づくり

環境保全分野の実践・体験活動が、僅かながらも地産品を生み、地域交流を育てる実績を挙げ、地域振興のヒントを見出した。実践活動への感謝の価値は、経済的に表現し難いが、「まい」付与額は活動実績と対比して見当が付くものとなり、この試行は上下流交流（地産品との交換・保有）発展の可能性を示した。本事業は、活動発表の意見交換会及び参加者アンケートの回答からも、水の絆の再構築に向けて意識が芽生えており、今後の豊川流域圏づくりに足がかりとなる活動になった。

## 5 今後の課題及び展開

表 4 にまとめて示した。

表 4 活動地域・分野における今後の課題及び展開

| 地域・分野                | 内容                                                                                                                                                                                                                           |
|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 農村部<br>新城エコファーマー     | 事業でイベントを実施したことで、地元は下流と交流のふれ合いができて地域が活性化してきた。今後は、エコファーマーの高齢化が一段と進むため、ぜひ若い学生に協力をお願いしたい。また、イベントを定期化して参加しやすくすること、体験学習プログラムを多彩に編成すること、地域の食材等を積極的に活用し、PRを推進すること、更に、下流都市部の住民に上・中流域の豊かな自然景観・歴史・文化と触れ合って頂く機会を開拓することに努めたい。             |
| 都市近郊部<br>梅田川フォーラム    | 住民主体の活動なので、肩の力をぬいて取り組む。イベントに参加した人々の感想・提案は真摯に受け止め、点灯したフォーラムの明かりを消さないようにしたい。そのため、定期活動にして梅田川流域全体への定着を図る。具体例として、上下流一斉クリーン活動を毎年 9 月に計画する。地域の小中学校及び高校の協力を得るため、教育委員会の後援も仰ぎたい。また、流域圏通貨「まい」の広報・流通網を拡大し、当フォーラムの動員力を養い、ボランティア否定感も払拭したい。 |
| 海岸部<br>豊川・渥美・前芝フォーラム | 当フォーラムとして、干潟の異常に見られるような現状の海岸環境への具体的対応については勉強途上である。参加者の意見を基に里海の再生・みなとの地域づくりをめざして活動推進に努めたい。貝採りは干潟観察や海への働きかけでもある。流域圏の住民とともに、三河湾が浄化され美しく活気ある海岸になるよう今後を見守る。                                                                       |
| 流域圏通貨<br>「まい」の付与・交換  | 本事業で「まい」付与・交換体験者は流域圏人口 75 万人中 0.04%（延べ人数割合）であった。今後は、i) 若い世代への「まい」付与・交換の案内、ii) 体験者の希望をもとにした「まい」運営システムの改良、iii) 上中流域での実践・体験イベントの追加、協賛 PR を重点とし、環境保全・上下流交流活動の呼び水効果を高めたい。                                                         |

おわりに、本事業の活動推進にあたり活動地域の皆様と関係行政機関・団体・企業のご理解とご協力に謝意を表します。



## 〔資料〕

### 1 新城エコファーマーの活動アンケート結果

#### (1) 秋のイベントに参加した方の感想・意見

- ・秋のイベント参加者の感想・意見は、次のとおりであった。
- ・田畑での作業の際にはいろいろな方が声をかけて頂き、手伝いし合い楽しく活動できた。
- ・初めてのことができて嬉しい。菜の花が咲くのが楽しみ。
- ・夏目講師の歴史環境講話はおもしろかった。地域の歴史がよく分かり、知らないことも教えていただき、興味深く話を伺った。
- ・半日という短い時間だったが、地元の方々と一緒に活動ができて楽しかった。
- ・農業機械の体験等が良いと思った。花の撒き方や機械の使い方を教えてもらいたい。
- ・個人的にエコファーマーについてもっと知りたかった。

#### (2) 冬のイベントに参加した方の感想・意見

- ・木の伐採は重労働であることと、里山の手入れの大切さを実感した。
- ・疲れたが、それ以上に林業の大変さ危険さを、身を持って経験することができた。
- ・間伐の体験は大変だったが、楽しくできた。
- ・里山手入れや歴史環境講話など、普段できない貴重な体験ができた。
- ・新城の歴史話は中々聞けないのでよかった。鉄砲（火縄銃）の見学はとてもよかった。
- ・鉄砲手入れの見学では、実際に銃に触れさせていただきよい経験をした。銃内部の仕組みも分かった。
- ・戦国時代の人々の生活と戦いぶりに感心し、現代人の忍耐力のなさを反省する。
- ・里山の手入れの大変さを実感した。銃の手入れも見ることができてよい体験であった。
- ・切った竹で炭をつくる。間伐材で「ひのき風呂」（足湯も可）を作りたい！
- ・“宿坊体験”をしながら、里山手入れの体験ができたらい。

### 2 梅田川フォーラムの活動アンケート結果

#### イベント参加者の感想・意見

- ・ゲリラ豪雨の影響か発泡スチロール等のゴミが多く、市民のモラルを今一度考え直す必要があると感じた。
- ・過日のゲリラ豪雨の後か、ペットボトルがびっくりする程多かった。
- ・クリーン活動に参加し、ゴミの多さに驚いた。モラルの低さに落胆した。
- ・ゴミがすごく多かった。ペットボトルやボールが多かった。
- ・全てゴミを集められなかったのが残念！
- ・梅田川のゴミは大量にあって、一人分1袋より3袋以上必要であった。一番びっくりしたのは、家電を含めたゴミの集中投棄があったことである。
- ・今回の活動で集めたゴミが、整理し難い種々雑多なものであったことが悲しい。
- ・ふるさとの川をクリーンにすることは大変よいこと。
- ・環境保全活動に始めて参加して、活動の大切さを痛感した。
- ・他の川では見られない、又は見るのが少ないゴミが目立った。例えば釣具や釣針の袋。

- ・まだ人数とゴミ袋が少なかった。ゴミ袋は1人3袋必要。意外にゴミが多種で多い！
- ・初活動のため、梅田川のヘドロ・水質浄化活動についてもっと詳しく知りたい。
- ・ゴミ集積場所を増やせば効率が上がる。集める場所を何箇所かに決めて、車で集めれば効率が良くなる。分別について指示がもっと必要である。
- ・もっとクリーン活動時間があるとよい。
- ・ゴミ袋がもう少し欲しかった。「収集部隊」があると楽だった。「生物係」があっても良かったかもしれない。
- ・考えていた以上にゴミが多く驚いた。ペットボトルや発泡スチロールが目立った。いずれも個人のポイ捨てと思われ、クリーン活動以上に、ゴミを捨てないよう呼びかける事も重要と思われる。また、自然に分解される素材が普及すればと思う。
- ・大量にあり、袋1枚では足りなかった。多くの人が参加するとよいと思う。
- ・ゴミが拾いきれなかった。まだたくさん残っている。もっと人数を増やし、活動回数も増やしたほうがよい。
- ・活動参加者は名札を付け、地元の人と他の地域の人との色分けもあると作業しやすく、交流もできてよいのではないか。
- ・定期的に行なうと大変良いと思う。
- ・道徳教育が必要である。市民活動として定着するよう希望する。
- ・思ったよりゴミが多く、ゴミ袋の不足（があった）。今後は回数を増やして、いま少し呼びかけが必要である。
- ・この活動をもっとPRしていただき、市民は外に出かけた折に発生したゴミを常に持ち帰るよう協力してほしい。
- ・環境教育のためにも、子供を活動に巻き込んではいかがでしょうか！
- ・「まい」を知らない。もっとPRして欲しい。
- ・梅田川の上・中・下流が一体になってクリーン活動が行なわれるとよい。他の河川の美化活動によい影響を与え、三河湾再生につながると思う。

### 3 豊川・渥美・前芝フォーラムの活動アンケート結果

#### (1) 9月のエコアクション・イベント

##### ① 環境保全活動に参加した人々の感想・意見

- ・アサリが全滅し、アサリが採れなくて非常に残念！ 干潟が貝殻だらけでショックを受けた。自然環境の影響の大きさに今一度ビックリ！
- ・アサリ採りを楽しみにしていたが全滅状態で残念であった。しかし、かえってこのような現象が現実になり、その原因が何かを考えさせられるきっかけとなり、また一年後には元通りになる自然の不思議に驚かされる。
- ・アサリの全滅で潮干狩りができなくて残念だったが、ヤドカリやカニをつかまえることができた。カニとヤドカリがいっぱい獲れて楽しかった。(小学生)
- ・普段何気なく過ごしている地域の状態を今回しっかり感じる事ができた。
- ・苦潮のすさまじい被害が分かり、環境保全の大切さを感じた。三河湾を浄化しなければなら

らない。浄化活動も国・県・市町村・住民が一体となって取り組む必要がある。

- ・ゴミは前回の清掃時より少なかったが、ビンや缶が多かった。ビンや缶を平気で捨てる人がたくさんいることに驚かされた。川をきれいに！
- ・紙おむつが捨ててあったりして、子を育てる人のモラルがまだであると思った。
- ・今回清掃した海辺は、以前の清掃した時に比べ、大変きれいになっていた。
- ・海岸線全体にゴミ集めされてきれいになった。海岸は程々きれいになっていた。
- ・初めて参加し、このような団体がある事に感動した。また参加したい。
- ・小学生や中学生に声をかけても良い気がする。

## ② 交流会に参加した人々の感想・意見

- ・このような機会が今まで無かった。いろいろな方と環境活動を行い交流できてとても良かった。またこのような会をやってほしい。
- ・炭焼きのサンマ・イカがおいしかった。みなと塾の皆さんの“もてなし”がとても良かった。ただし、交流会の席が各々地元で固まっていたので、席順は各地域の方との交流を深めるため一考されたい。
- ・交流も楽しく良い機会となった。皆さん仲良く楽しかった。非常に良い活動でもっと輪を広げると良い。中学校でもPRしたらどうか。
- ・アサリが採れる海にしたい。多くの人が自然や環境改善に興味を持つようになると良い。地元で感じられなかったことを別の地域の人が考えていることが良かった。もっと前芝海岸を見直してほしい。
- ・幅広い活動を期待している。今後も豊川上流の方と渥美半島の方との交流を深め、継続的に開催してほしい。

## (2) 12月のエコアクション・Xマスイベント

### ① 環境保全活動に参加した人々の感想・意見

- ・ゴミ袋を片手に拾い集めたゴミが増えるに従い浜辺がきれいになった。
- ・ゴミの量が多かったが、大勢の人で拾えば短時間でもきれいになる。
- ・バスから降りた時はゴミのすごさにビックリした。ペットボトルがすごく多かった。
- ・ゴミ拾いを終えた時の浜辺はすごくきれいと思った。全員の協力が頼もしい。
- ・大勢参加者の努力できれいな浜辺になり、参加して良かった。
- ・改めてゴミの多さにビックリした。ゴミを出さない取組みが鍵である。力を合わせてやれば“キレイ”になる。
- ・ペットボトル、空き缶等が少なく思ったよりゴミが少ない。ゴミ拾いがしっかり行なわれているのだろう。数年前に来た時との差に感心した。亀の子隊らの努力の跡が見受けられ、海岸線が予想よりきれいであった。
- ・大変良いことである。浜の清掃に初めて参加し、いつも気にしていたゴミをほんの少しでも片付けられて、ほっとした。
- ・530運動発祥の地、豊橋から9才の息子と2人で参加した。清掃だけでなく、貝殻を拾ったり魚の骨を拾ったりして、楽しくエコアクションができてよかった。
- ・亀の子隊、矢作川川会議の活動に感激した。

- ・海に流れてきたもの、ゴミだけでなく石ころなど何処から来たのか、きれいな小石と砂浜に関心をもった。
- ・冬枯れの中砂に根を張った植物は護岸に有効だが、ゴミの溜り場になっている。西の浜はいろいろな所から集る“ふき溜まり”域のように感じた。
- ・水辺は人の気持ちをなごませる。釣り人がいて遠くに島影や船も見え、いつも見慣れた湾奥と波が違っていた。夏はもっと人が好んで来る所だろう。浜辺のゴミは多種多様でたくさん集められた。
- ・毎月活動している「亀の子隊」ご苦労様！
- ・10～20年程前と比べて何とゴミが多いことか。帰りのバスで259号から見る海岸はゴミ・ペットボトルが散乱していた。入浜権以前の問題である。
- ・バス旅行気分ボランティアが出来るなんて最高だ。釣り人は弁当袋を捨てることをやめると思う。
- ・これからも清掃活動に参加したい。今回をきっかけとして仲間をつくり、今後はその仲間と清掃活動ができると良い。
- ・周りの人に声をかけ、一人でも多くの人が理解し活動に参加する社会になればと思う。

## ② 海辺の交流活動の部

- ・最初の参加で全部は把握できていない。いろいろなグループの参加があった。今回は短時間で亀の子隊の活動紹介のみだったが、質疑応答の時間等があればよかった。
- ・海辺環境・活動講話を聴いて、西の浜清掃の歴史・内容を知ることが出来てよかった。長年の奉仕活動に感心した。渥美地域の人との交流が出来て良かった。
- ・行政の一面にふれて考えられないこともある。環境を保つため、この活動以上に環境を壊さない工夫、個々に出来ること、環境を壊すものを使わない工夫をする。
- ・亀の子隊の経過を聞いて、10年間子供を中心によく頑張っている。活動を長く続けていくことが大切だと触発された。
- ・鑑賞したビデオ2本は、いずれも短時間であったが、とても参考になった。
- ・豊川用水を利用して恩恵を受けている人は、豊川用水のために不便になって以前よりも不都合になっている人のことが分かっているのかと「ふと」思った。
- ・初めて近くで風力発電を見た。初の訪問地で、風車の風切音を体感できた。このような広々とした公園へ足を伸ばしたい。釣り人が全くいなかったのは不思議だ。
- ・初めて来て大変楽しかった。天気も良く景色も良かった。とてもきれいに整備されていて心休まる一時を過ごした。野鳥観察もほとんど初体験で興味深かった。
- ・干潟がこんなに近くにあることを知らなかった。田原の思いがけない場所を見ることができて満足した。
- ・エコパークは人の手が入り、汐川干潟は手を入れないようにして対照的である。人間のパワーは凄い。物を作り、物を消費して繁栄してきた。過去の自然のバランスを崩した人間は数を減らすか未来の方策をとるか。自然を大切にすべきことをつくづく感じさせられた。
- ・汐川干潟は地元の宝物であり、後世に残していきたい財産だと再認識した。



#### 4 「まい」の付与・交換についてのアンケート結果

「まい」付与・交換体験者の感想・意見は、次のとおりであった。

- ・まだよく意味が分からない。イベントに参加しないと使えないのか。
- ・もっと PR して欲しい。輪の広がりを期待する。
- ・「まい」の用途を広げる。インターネットホームページを設ける。
- ・使えるサービスの頻度や種類が増えるとよい。
- ・交換希望メニューとして、地域の食べ物、野菜、花の種、苗、米、コスモス等の押し花しおり・はがき、資料館の入場券、温泉の入浴券などを希望する。
- ・「まい」参加サービス店やイベント案内があるとよい。農産物を加えると一次産業者との関わりも深くなり、参加者もその土産に食卓の話題が出来、活動の輪が広がるのではないかな。

#### 5 活動発表会参加者へのアンケート回答結果

##### (1) 事業の環境保全活動・交流イベントに参加したことがある方の感想・意見

- ・どの活動イベントも、計画と成果をより多くの人に知ってもらうことが大切なことだと思う。自分なら何が出来るかをよく考えて、小さな事でも少しずつ実践していこうと思う。
- ・豊川の縁に集う市民から「ここでお茶が飲めたり、ビールが飲めたり、軽い食事ができて、懇談やゆったりした時が過ごせる場が出来たらいいね」という声を聞くことがある。それが出来るようになるには、やはり日頃の一人ひとりの地球を守る心掛けだと思う。より多くの人が自分の気持ちから動き出すようにしていかなければいけない。
- ・まだ3回参加して内容を勉強することで精一杯。これから活動・研究していく。
- ・地域住民が一体となって環境問題に取り組むことは難しいが、このようなイベントに今後も多数の方が参加できれば良いのではないかな。アサリの大量死は大変残念だが、早く再生出来またアサリが大量に採れると大変嬉しい。今後も環境が悪化しないよう住民一人ひとりが自然を大切にしていきたいものである。
- ・「新たな責任の時代」はアメリカ合衆国だけの話ではない。昨今の地球環境時代にあって責任世代の行動責任は重大である。今回の「豊川流域圏づくり」の趣旨説明に生活圈・交流圏という発想での説明があるが、もう人間中心主義は卒業すべきではないか。所詮人間も数ある生物の中の一種である。豊川流域圏を一つの生命圏、生命地域と考えて、この地域に生存する全ての生物との共存を目指す発想で活動を企画して欲しい。例えば、農業の外部経済を救い上げ、外部不経済を抑制するような仕組みを機能させる「まい」の在り方も考えてよいだろう。うまく行けば行政や政治も動きやすくなる。
- ・沿岸部～山間部の環境も様々、ホーッ!! この報告会で、広い範囲に亘りそれぞれ興味深い活動をされていることを初めて知った。
- ・「まい」という通貨は面白い。使えるチャンスや使えるグッズが増えると流通して活動に参加できる人も増えていくと思う。電子カード化をどうやってとか興味津々。東三河の活性化に貢献できるよう期待される。
- ・様々な地域の住民が環境保全活動に、地道に、一生懸命取り組んでいることを改めて実感した。今後もいろいろ苦勞が多いかと思うが、継続して更に大きな輪となることを願う。

- ・このようなイベント・活動が年齢の枠を超えて交流出来る良い機会と捉えて、もっと多くの人が参加できるように組織を拡大して頂きたいと思う。
  - ・特に青少年（小中高の学生）の方にも広く呼びかけ、将来の行方を明るくしたい。その前にゴミを捨てないことが大事で、モラルの向上をより声を大にして呼びかけ、ゴミ捨ては「悪」であると思わせたい。
  - ・今回の報告会は、全体の動きが理解出来て良かった。今後 3 グループの活動結果・反省を踏まえ、ネットワーク化や参加人員の拡大を目指すとうい。他の NPO との連携を如何にするか。あわてない方が良くかもしれない。
  - ・流域圏通貨「まい」の役割のパイプをもっと太くするとよい。
  - ・活動ビデオの鑑賞は参考になった。今日の参加者に気に入ってもらえたと思う。
  - ・エコファーマー活動では、豊川だけでなく日々口にする作物での繋がりがあのかと改めて感じさせられた。梅田川フォーラムでは、クリーン活動だけでなく、水質調査や講師の講話で、農業、水、他の団体の活動など様々な面から考えるよい機会になった。前芝フォーラムでは、潮干狩りや交流会で、飯田の方々も昔、前芝でアサリを採った話を聴くなど、上流の地域との繋がりを知り、とても興味深く思った。
  - ・里山、エコファーマーの双方の活発な活動内容を聞かせて頂き感心した。
  - ・梅田川の水質検査を定時、定場（点）の測定を継続されることを希望する。
  - ・海岸での貝類の生態系活動（生息環境）の大変さを感じた。
  - ・「まい」の流通の様が分かった。ある地区では地元の店ともタイアップして流通させているのを聞いたことがある。店やバンクと協働していくことも必要であると感じた。“多くの参加者＝「まい」の発行数増大化”
  - ・牛に引かれて善光寺参りではないが、日頃、環境保全活動・地域交流活動等には無関心に過ごしていたところ、身内の某氏から誘われて 2・3 イベントに参加した。実際に体を動かしてみれば、得られる経験・知識等は貴重なもので楽しいものである。自分から行動を起こすことができないだけに、夫々活動の先頭に立っている方々、或いは事務で支える方々には益々頑張ってもらいたい。
- (2) 同イベントにまだ参加したことがない方の感想・意見
- ・皆さんの熱心な活動に感心した。
  - ・平成 21 年の予定表があればよい。新城の山里の緑、田んぼの美しさは何時も気持ち良い。アサリ浄化力・海の広がり勉強した。梅田川も広く景色も良い。きれいになってほしい。
- (3) 同イベントに参加が不明の方（記入なし）
- ・頑張ってもらいたい。継続こそ力なり。次は参加出来るかもしれない。山林の間伐も楽しい。
  - ・いろいろな活動が水と暮らしにあることを知った。エコ農業、あいち米の作り、昔なつかしく鑑賞した。今後の活躍を祈る。
  - ・豊橋市内の朝倉川では、「朝倉川育水フォーラム」が川の清掃活動を行なっている。その一回の動員数が 500 名以上になっている。梅田川フォーラムでも、地域の人達に呼びかけて大勢の方参加されるように、各自治会を通じ強力にお願いされてはどうか。

（摘要）以上、アンケート回答者（当日回収分）19 名。

## 6 環境ボランティアサークル亀の子隊から豊川・渥美・前芝フォーラムへのレター

### (1) 12月イベントの良かった点

- ・流域の人々に河川の下流となる海・西の浜の現状（渥美の海岸が三河湾と伊勢湾に面していること、ゴミの量と種類の多さなど）を見てもらえたこと。
- ・子供達が主体となって活動している西の浜クリーンアップ活動を知ってもらえたこと。
- ・交流会1で亀の子隊の活動紹介（イメージや歴史等のプレゼン）を見てもらえたこと。
- ・交流会2で参加者の皆さんとお話し（懇談）ができたこと。
- ・「まい」の交換で、参加者（特に子供達）が喜んでいたこと。
- ・豊川・渥美・前芝フォーラムが、豊田市矢作川川会議の皆さんと共に亀の子隊と合流して活動（西の浜クリーンアップ活動＋交流会1）ができたこと。

### (2) イベントで直していきたい点

- ・豊川・渥美・前芝フォーラムの日程に西の浜クリーンアップ活動を合わせるという打合せができず、計量などフォーラムの計画が100%実施できなかったこと。
- ・基本的に自由参加の「亀の子隊」としても人数確保など難しいが、話し合い（懇談）を行なう時間をもっと確保できる交流会の設定があるとよい。ただし、そうするとフォーラムの活動（例 初立ダムの見学、馬草の海や風車の見学など）が制限されてしまう。

（摘要）計画プログラム作成に協議を密にする必要がある。

### (3) 今後の交流の形について

- ・当フォーラムが年に数回実施されるなら、その内、上流域で行なうフォーラムに亀の子隊が参加するという形があっても良い。特に「山」の仕事＝枝打ち、植林、しいたけ菌打ちなどを体験して知ることの良い。それから、豊川の源流“きららの森”を訪ね、「川」の良さを体感するというのもよいと思う。ただし、日程的には休日ということ、それから渥美から設楽までバスでゆくと3時間は優に掛かるという条件がある。また、運営費も必要である。

（摘要）提案の具体化、課題解消に向けて協議が必要である。

## 7 活動発表会における参加者の感想・意見及び後援機関の講評（要旨）

### (1) 活動に参加した住民の感想・意見

- ・新城エコファーマーの活動に参加して、人の手が入っている農村景観は美しい。農業体験から自然との共生を図る活動に意義を感じた。（織田氏）
- ・梅田川フォーラム等の活動に参加し、環境美化活動を体験して重要性を改めて認識した。東海地方の他の流域に住んだ経験からも、いろいろな可能性が見出される。今後この活動が大きく育ち、環境施策などに提案ができることを期待する。“タフスピーカー”になって情報発信を進めて欲しい。三遠南信地域の特性を活かして、住民主体の活動が大きくなることを願っている。（小林氏）
- ・私達とまちは海辺に生まれ海に育てられた。豊川・渥美・前芝フォーラムの活動に参加して、仕事が一年中あって地域・世代間の疎通もよく、活気があった頃を振り返り、潮干狩

りの代名詞であった前芝はじめ海岸の再生を願うようになった。フォーラムの活動を進め、豊川流域の各地の住民、企業に、豊川をきれいにする、環境を守る意識を高めていただきたい。(松下氏)

- ・各地域の活動に参加して、普段の学生生活と違って現場を体験できたことは大きなメリットで、いろいろな世代と交流できたこともよかった。一方、若い世代が少なく固定化もあって、広報の仕方が課題といえる。(木全氏)

## (2) 講評

- ・報告された活動に敬意を表し、「まい」を核に各主体が連携して環境保全活動を推進していただきたい。また、広報戦略をよく考えて子供らと協調を図るなど、身近なことから実体験の場を拡大・継続していただきたい。(国土交通省豊橋河川事務所 山崎所長)
- ・地道な活動に敬意を表するとともに、お金にない価値「まい」のこれからの発展を期待し、更なる工夫と有効性を引き出して欲しい。地域計画で経済と環境との調和を図っていく上でも、このような住民主体の各地の活動が行政の地域施策に反映される意見になることを期待したい。(社団法人東三河研究センター 金子常務理事)
- ・若い世代、学生にとって現場での実践・体験学習は重要である。現実マニュアルどおりではない。環境計画の受け売りではなく、実体験を重ねる環境教育を通じて、各自の意見や行動を考えていただきたい。(愛知大学経済学部 沓掛教授)

以上

## 委託期間の成果物

### 1 催事案内らし

- ・新城エコファーマー . . . . . 秋のイベント、冬のイベント、計 2 点
- ・梅田川フォーラム . . . . . 1st イベント、2nd イベント、計 2 点
- ・豊川・渥美・前芝フォーラム . . . 09 月イベント、12 月イベント、計 2 点
- ・活動発表会 . . . . . 全 1 回、1 点

### ・主な配布先

| 催事名           | 作成部数            | 配布箇所数  | 主な配布先*                                                                                                                                                       |
|---------------|-----------------|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 新城エコファーマー     | 500<br>+<br>500 | 30 箇所程 | 愛知県、東三河県事務所、愛知大学三遠南信地域連携センター、NPO 穂の国森づくりの会、新城市役所農林・環境部局、市民活動センター・公民館、JA 機関、活動実施地域（地区）、イベント参加者連絡先、報道機関（豊橋、新城）<br>豊橋鉄道新豊橋チラシ BOX                               |
| 梅田川フォーラム      | 500<br>+<br>500 | 50 箇所程 | 国土交通省豊橋河川事務所、愛知県、東三河県事務所、愛知大学三遠南信地域連携センター、豊橋・田原市役所環境部局、市民館・公民館、活動実施地域（地区、校区、後援・協力団体）、イベント参加者連絡先、報道機関（豊橋）<br>豊橋鉄道新豊橋チラシ BOX                                   |
| 豊川・渥美・前芝フォーラム | 500<br>+<br>500 | 30 箇所程 | 国土交通省豊橋河川事務所、愛知県、東三河県事務所、愛知大学三遠南信地域連携センター、NPO 穂の国森づくりの会、豊橋市役所環境部局、市民活動センター・市民館、活動実施地域（地区、校区）、イベント参加者連絡先、報道機関（豊橋）<br>豊橋鉄道新豊橋チラシ BOX                           |
| 活動発表会         | 1,500           | 60 箇所程 | 国土交通省豊橋河川事務所、愛知県、東三河県事務所、愛知大学三遠南信地域連携センター、社団法人東三河研究センター、NPO 穂の国森づくりの会、豊川流域市町村長、市役所企画・環境部局、市民活動センター、JA 機関、活動実施地域（地区、校区）、イベント参加者連絡先、報道機関（豊橋、新城）、豊橋鉄道新豊橋チラシ BOX |

（注） 1） \*：以上の外、電子情報にして、インターネット（市民活動支援サイト等）でイベント案内を公開するとともに、役員の知人・同窓・地縁者等に配信した。

2）ポスターは、チラシを A1 版等に拡大したもので、会場・受付に適宜掲示した。



## 2 催事当日配付物

- ・新城エコファーマー . . . . . プログラム、アンケート用紙
- ・梅田川フォーラム . . . . . プログラム、アンケート用紙
- ・豊川・渥美・前芝フォーラム . . . プログラム、アンケート用紙
- ・活動発表会 . . . . . 活動発表資料（プログラム入）、アンケート用紙

### ・参加者数

| 催事名               | 日時                    | 会場                                         | 参加者数*   |
|-------------------|-----------------------|--------------------------------------------|---------|
| 新城エコファーマー         | 10月18日<br>9:30～14:30  | 上平井地区・公民館、田畑<br>大谷城址及び周辺                   | 人<br>20 |
|                   | 12月6日<br>9:30～14:30   | 上平井地区・瀬野運輸駐車場、山林（大<br>谷城址）及び設楽ヶ原決戦場資料館     | 23      |
| 梅田川フォーラム          | 9月27日<br>09:45～15:00  | 梅田川中下流・植田橋付近（1km 間）<br>和食店大鯛               | 67      |
|                   | 11月16日<br>09:45～14:45 | 梅田川下流河口・大崎橋付近（500m 間）<br>船渡町公民館            | 35      |
| 豊川・渥美・前芝<br>フォーラム | 9月28日<br>10:00～14:30  | 豊橋市前芝町海岸・外浜<br>（地先の干潟～河口左岸）                | 40      |
|                   | 12月21日<br>10:00～16:00 | 田原市西の浜海岸（2km 間）、伊良湖休<br>暇村、初立池、緑ヶ浜公園・エコパーク | 56      |
| 活動発表会             | 1月24日<br>13:30～16:15  | 愛知大学豊橋校本館 5階 第3.4会議室                       | 58      |
|                   |                       |                                            | 299     |

（注）＊：参観者・お手伝い及び幼児など、受付と記録から漏れた方は含まない。